

## 退職公務員に対するヒアリング概要

平成19年12月3日

14:00～15:30

<元A府省（庁）地方支分部局職員（係長）a氏

退職年月日 平成18年3月31日 定年退職

退職後の仕事 自営業

居住地 東京都>

問 現在の就業状況に至った経緯、事情（自助努力で探したものでどうか。再任用希望調査があったのか、再任用の希望はしなかったのかどうか、また、その理由など）。

答 昨年3月に定年退職し、在職中に取得した資格を活かし、6月から自営業をしている。再任用の希望は書面により、1年前から希望するかしないか聞かれたが、自営業をするつもりだったので、「希望はしない」旨回答し、断った。

問 現在の就業状況、現在の就業状況による生活実態についての実感、収入等の面、家計状況について満足しているか、不満か。また、その理由。

定年退職前の知識、経験等は現在の仕事（職務内容）にどのように活かされているか。

答 現在の自営業の仕事については、満足している。その理由は、収入としては初年度は「0」からスタートし、2年目にも黒字にはならない見込みだが、これからは信用ができれば客がつくという希望を持っており、社会的には、これまでの知識、経験を活かせる専門的な仕事であるので、満足している。

収入の面では、年金が出ているのでありがたい。

問 平成25年度にいわゆる「無年金期間」が発生するが、この影響を受ける後輩達についてどう考えるか。

答 我々の時代には将来、「無年金期間」が生ずると力説されることはなかったし、あまり深く考えていなかったもので、「無年金期間」が5年間続くとは考えていなかった。幸い就業できているので何とかなっているが、後輩は大変と思う。我々の世代と同様に就業できたり、それなりの年金が貰える状況は無理だと思う。

また、前もっての退職に向けての準備が必要で官側がフォローしないとやっていけない。少子化が進行し、若年人口が減るので、高齢者が働く必要があるというなら、満額ということはないにしても、「0」では立ちゆかない。再任用の枠を広げるなど高齢者雇用の環境を整備していけば、不安がなくなり公務に邁進できるのではないか。

問 現在の職務に従事するに当たり、支障なく取り組めたかどうか。（工夫した点、苦労した点など）。

答 業務相談の対応などは、年齢的、体力的に、定年後でもできる仕事であり、専門性も高められるのでいいと思う。

問 現行の定年制度、再任用制度等の仕組みについての考え（満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど）。

今後、公務員について新たな雇用確保策を策定する場合、定年延長・定年制廃止、再任用の義務化のいずれが適当と考えるか及びその理由。

答 「定年延長」か「再任用の義務化」というのは運用の仕方ではないか。

自分の場合は、通勤方法も変わらず、今までの仕事の延長上であるので、恵まれていると思う。一つの社会的奉仕ができる仕事に就けたから民間企業に就職はしていない。

定年延長か再任用の義務化のどちらかというのはこだわらなくてもいいと考えている。どちらか一つ、これだけということでもない。民間企業に勤めている人でも公務員よりはるかに年金をもらっている人がいて、「ええっ!こんなに」ということもある。公務員がみな優遇されているということではない。

問 定年延長をするととなると50歳くらいから給与を下げなければならないということについてはどう考えるか。

答 パイの中で取り合うことになるので、今までのように右肩上がりというわけにはいかないのではないかと。定年延長、再任用の義務化のどちらでも将来の不安がなくなってくれればいい。

（「定年延長で退職年齢が5年伸びても業務はやっていけるか」との問に対して、）A府省（庁）にはいろいろな部署があるので、部署によると思う。若い人と一緒になってやっていくところはきついところもあると思う。

問 現に支給された退職手当、共済年金についての考え（満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど）。

答 退職手当、年金については、世間的に恵まれていると言われ、民間では退職金が800万円と聞くと、それは40年勤めた結果なのかという疑問があるが、人から「公務員はいいね」と言われるとそうかも知れないという気持ちになる。しかし、民間でもいい話を聞くので（何年勤めたのかまでは分からないので、ただ聞き置くだけということだが）何とも言えないというのが実感である。

自分の年金収入等は公的年金は約190万円、生命保険の個人年金は年間約80～90万円。トータルで約280万円である。自営業の事業収入はないが、妻もアルバイトをしていて収入があり、子供も独立しているので、夫婦二人であれば何とかいけるという状況である。個人年金をかけていなかった場合は足りないのでは、かけてきてよかったというのが実感である。また、年金がなくなれば、厳しいので、5年間無年金というのはちょっと理解できない。

問 退職再就職に当たって支援して欲しい内容(セミナー・職業訓練の充実、失業手当、収入減少への補填、就職活動支援書の交付、自己啓発への支援など)。

答 友人などに聞くと、大手企業はライフワークセミナーなどを退職前に実施し、必ず受けると言ったり、その他の後援会や研修会の参加費用はすべて会社持ちで参加させているようだ。

また、再就職の準備に必要なら休暇は10日間はとるようにと指導しているようだ。

A府省(庁)でもセミナーの話があったが、私は当時右から左に聞き流していた。ただ、専門研修で法律等の勉強ができてよかったと思っている。

「収入減少への補填」については、退職するまで考えが及ばなかった。

問 自宅は持ち家か。

答 持家である。定年までには住宅ローンを終えようということでローンを組んだ。また、現役のうちに預貯金を入れて人生の中では付録的な気持ちで家を建て増した。今のところ、毎年、補修の費用がかかり、白アリ駆除には5年に1回20万円かかる。こうした費用は個人年金から支出している。

問 今後の生活で気にかかることや不安に思うことがあるかどうか。その内容はどのようなものか。また、ご自分の後輩に伝えたいことはあるか。

答 自らの健康と家族の健康が不安。年金や個人年金だけでは対応できないので蓄えが必要。

現在、マスコミ等で公務員の不祥事が報道されているが、目標を見失うとそういうことになると思う。したがって、年金等の裏付けは必要だが、自分の目標をしっかり持って頑張れと言いたい。

<元B府省(庁)地方支分部局職員(課長) b氏

退職年月日 平成18年3月31日 定年退職

退職後の仕事 農業(果樹)

居住地 福島県>

問 現在の就業状況に至った経緯、事情(自助努力で探したものでどうか。再任用希望調査があったのか、再任用の希望はしなかったのかどうか、また、その理由など)。

答 昨年3月に定年退職し、現在、40アールの農耕地(果樹園)で柿の栽培を行っている。人事当局からは、農業をやりながらでもと再任用の希望を聞かれ、こういうポストはどうかと言われたが、勤務地が限られている上、ポストの空きが少ないとか枠がないとも言われたので、結局再任用は断った。

また、民間企業については、X団体への再就職の斡旋があったが、健康上の理由から断った。

問 現在の就業状況、現在の就業状況による生活実態についての実感、収入等の面、家計状況について満足しているか、不満か。また、その理由。

答 現在の仕事の農業については、親の代からの仕事だが、これで収入が得られるということはない。むしろ農業を継がなかった方が良かったかとも思う。

現在、63歳から満額年金になるが、年金額は20万円に達しない金額であり、個人年金をもっとしておけば良かったかと思う。収入が少ないのは大変だが、入院した場合の高額医療費の保険には入っているので、対応できている。

問 現行の定年制度、再任用制度等の仕組みについての考え(満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど)。

今後、公務員について新たな雇用確保策を策定する場合、定年延長・定年制廃止、再任用の義務化のいずれが適当と考えるか及びその理由。

答 将来的に60歳から無年金期間が発生するとなると、公務における新たな雇用確保策としては、「定年延長」の方が(全員昇進スピードを遅くする方法なので)ポストはあって安定していていい。50歳から給与が下がるのは厳しいが、地方では再任用は(役職が下がって後輩との関係で職場が成り立つような)ポストがないので難しく、身体が元気なら「定年延長」の方がいい。

定年年齢が5歳延び、勤務年数が「5年」伸びても業務はやっていけるのかどうかについては、「体力」の面では問題ないと思うが、ただ「体力的」にはきつなくても、B府省(庁)は人員削減が厳しいので今の状況ではいづらと思う。

問 管理職が再就職する場合の給与はどれくらいか。また、退職者のうち、管理職と管理職以外の人の割合はどれくらいか。

答 私のところに話があったのはX団体で月25万円、年間300万円で5年間という話だった。年金を合わせると450万円くらいである。再就職の話は管理職だけにあった。

(平成18年度の)管理職と一般職の人数は前者が2人、後者が6人である。

(X団体以外に再就職の話はないのかとの問に対して、)かつては勤務官署も就職先はあったが、今はない。あるのは57~58歳で勸奨でやめてX団体の葬祭センターに行っている位である。

問 年金が支給されず、300万円という再就職による収入についてはどう思うか。

答 私の場合は、固定資産税が16万円かかるので、生活は大変であり、300万円だけでは足りない。

問 X団体だと300万円だが、民間企業だと収入減少の補填策を入れれば400万円位になるが、それだと生活はどうか。

答 それ位の収入があれば何とかやっていけるのではないかと思う。

問 現に支給された退職手当、共済年金についての考え(満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど)

答 公的年金収入は150万円で月当たり13万円に満たない。7年前に家を新築し、毎月のローン返済(金融公庫)は9万円なので、生活費は退職手当をとり崩しており、なかなか家計は大変である。

農業収入はほとんどないので、土地の維持のために固定資産税を払うときには、土地がなければ良かったかとも思っている。

今は妻が月18~20万円収入があるので、何とかなっているが、来年60歳で定年のためこれからどうなるか分からないという状況であるが引き続き働かざるを得ないのではないか。

大きなものを買うとき、家の瓦、外壁、トタンなどの改修をするとお金がかかる。家の塗装も5年に1回位行う必要があると言われていたが、1回につき15~16万円かかるので、5年に1回まではできない。

63歳で満額年金は出るが、19万円ちょっとと少なく、生活は厳しいと思っている。

問 退職再就職に当たって支援して欲しい内容(セミナー・職業訓練の充実、失業手当、収入減少への補填、就職活動支援書の交付、自己啓発への支援など)。

答 退職再就職に当たって支援して欲しいことは特にない。

問 今後の生活で気にかかることや不安に思うことがあるかどうか。また、その内容はどのようなものか。

答 不安に思うことは「健康」であり、「健康」が大事である。健康以外では公的年金だけでは足りないので、「個人年金」の積み立てをやっているが、もっとやっておけばよかったと思っている。個人年金は、現在は5年間で月3万円受給だが、月5~6万円受給する契約にしておけばよかったと思っている。

<元C府省(庁)地方支分部局職員(課長補佐) C氏

退職年月日 平成18年3月31日 定年退職

退職後の仕事 農業

居住地 茨城県>

問 現在の就業状況に至った経緯、事情(自助努力で探したものでどうか。再任用希望調査があったのか、再任用の希望はしなかったのかどうか、また、その理由など)。

答 昨年3月に定年退職し、現在、農業に従事しており、親から受け継いだ23アールの農地のうち、13アールの水田では稲を、10アールの畑では野菜を作っている。3月から10月までは仕事が少しずつあるという状況である。

再任用については、希望を聞かれたが、提示された再任用先は遠方の官署で、遠距離通勤ができないこと、前年度には希望者が多かったため、再任用枠が少なく、1年を3分割し4月間だけの再任用の提示だったこともあり、身体を少し休めたかったので断った。

問 現在の就業状況、現在の就業状況による生活実態、収入等の面、家計状況について満足しているか、不満か。また、その理由。

答 妻も公務員で年金は二人で月13万円ずつだが、一人だったら足りないと思う。農業(稲作)だけでは食べられないので、これからの人は大変で、どうやって食べていくのかと思う。若い人は、これからどうやって生活設計をしていったらいいのかと思う。先が読めないのではないか。老後の生活を支えられるのは公的年金であり、大切だと思う。

問 今後、公務員について新たな雇用確保策を策定する場合、定年延長・定年制廃止、再任用の義務化のいずれが適当と考えるか及びその理由。

答 定年延長も再任用の義務化も一長、一短がある。地方官署では再任用制度でいけばいいという部門もあるが、再任用希望者の勤務場所があるのか、また、仕事があるのか心配である。そういう点を考えれば、定年延長してもらった方が安心であるが、そうすると若い人に迷惑をかけることになる。また、50歳から給与を下げられるとなるとその点も問題で、定年延長についての合意が必要と思う。

(「定年延長だと60歳で退職手当が出なくなることについてはどうか」との問に対して、) 60歳で退職手当が出ることを予定して生活設計している人にとってはつらくなると思う。

問 現行再任用の場合、5年間の無年金期間が発生することについてはどうか。

答 在職中にどれだけ生活設計してきたかによるが、5年間年金が全く出ないというのは問題と思う。勸奨退職・再就職も必要という気もするし、そうしないと定数管理もうまくいかないという気がする。勤務官署では以前は課長補佐クラスも再就職先があったが、今はない。

無年金期間が生じるときには何らかの収入がないと公務員になり手がなくなると思う。

民間では、企業年金と公的年金を合わせると結構な額を貰っている人もいると聞く。

問 退職者のうち、管理職と管理職以外の割合はどれ位か。

答 18年3月の退職者は勤務官署では、管理職2名で、管理職以外が8名であった。かつての受入先であったY団体も近年は組織が小さくなり、受入先がなくなってきた。

問 現に支給された退職手当、共済年金についての考え（満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど）。

答 年金額は年額160万円。自宅は平成3年に妻と一緒に1,400万円と1,200万円借りて建て、残金約800万円は退職手当で返済した。また、設備にお金がかかり、太陽光発電設備に400万円かかった。さらに自分が生まれた家も持っていれば後々役に立つということで、リフォームし、玄関、トイレ、浴槽などで800万円かかった。車は買換えも行い、貨物車、乗用車の2台必要なため260万円かかった。

これらの結果、妻が負担した分もあり、退職手当の残額は700万円位はあった。家の補修は退職手当をあてにしないと何もできなかった。

また、退職1年目は市県民税が60万円ほどかかったほか、固定資産税が年間100万円近くかかる。所得税もそれに応じてかかっており、預金がないとなかなか難しかった。

農業収入は小規模の場合、毎年赤字である。土地があつていいと言われるが、それなら貸すので使ってもらっていいと思うが、（借り手もいず）今は土地管理人と同じである。

退職手当も減額となっていて、退職間際に計算式を教えてもらって初めて知ったような状況である。早く辞めればそれだけ減額にならないということで定年の1年前に辞めた人もいた。

問 退職再就職に当たって支援して欲しい内容(セミナー・職業訓練の充実、失業手当、収入減少への補填、就職活動支援書の交付、自己啓発への支援など)。

答 退職する前に一人パソコン1台が割り振られ、使えるようになって良かったと思っている。また、首都圏に近いところでは、セミナーに参加してそこで覚えたことを職場の人達に教え、それが役に立ったと聞いており、そういう制度は必要だと思う。

再就職に関しては再就職したい職種の研修制度があればいいと思うし、民間のような支援金があればいいと思う。

民間は企業年金と合わせれば結構な額になっているのだと思う。公務でも思い切って制度設計をして欲しい。そうしないと公務員のなり手がなくなる。

問 今後の生活で気にかかることや不安に思うことがあるかどうか。また、その内容はどのようなものか。

答 今は家族は元気である。家族の健康が一番大事である。退職後の生活設計は50代からでは遅い。その前からできるよう若い人に対する啓発活動が必要。私も準備をしてきたつもりだが、退職後に何をやるのか見つかっていない状況だった。いろいろな人に会って情報を集めたり、自分が何をやるかを見つけないといけない。自分がやる気にならないとだめ

だと思ふ。

健康面では医師との関係が大事。平成10年に父が病気にかかったときは毎月約70万円くらい医療費がかかり、1割とか2割負担でもかなりの負担となった。60歳台で3割負担であれば、なお、大変なので、その点についても何らかの現役時代からの支援が必要だ。

以 上



## 退職公務員に対するヒアリング概要

平成19年12月19日

14:00～15:05

<元D府省(庁)施設等機関(技能職)d氏  
退職年月日 平成16年3月31日 定年退職  
退職後の仕事 施設管理等業務  
居住地 千葉県>

問 現在の就業先及び仕事の内容はどのようなものか。

答 施設管理を行なう会社に就職し、大手不動産会社が入居する高層ビルの中央管理室に派遣されている。仕事は、中央管理室でビル全体の空調や電気関係の保守などを行なっている。

問 現在の就業状況に至った経緯、事情(官側の斡旋によるものか、自助努力で探したものか)どうか。再任用希望調査があったのか、再任用の希望はしなかったのかどうか、また、その理由など。

答 4年前、私は当時のD府省(庁)で組合の役員をやっており、職員が再任用できるよう運動していたこともあり、自分のことは後回しにし、再任用の希望はしたが再任用されなかった。官側の説明は定員問題ということだったが、真にその人が施設に必要なかどうかの判断もしていた。現在も1人も再任用されていない。

現在の就業先は、退職直前の3月に新聞の折込広告にあった会社に応募し、運良く4月1日付けで採用され、現在に至っている。

問 現在の就業状況、ポスト、給与等の処遇面について満足しているか、不満か。また、その理由。

答 現在の就労状況は勤務時間は月160時間で当直が月7～8回である。国の施設等機関に勤務していたときも同じような勤務だったので、特に変化があったわけではなく勤務している。ポストは技術員で技術員は13名おり、現場で施設に日々起こる問題の対応に当たっている。中央管理室には管理者としてはマネージャー4名、アシスタントマネージャーが2名いる。

給与は国の施設等機関に勤務していたときの7割くらいに減っている。

問 職場でのコミュニケーションはうまくいっているか、苦労している点はどのようなことか。

答 職場には若い人もいるが、60歳以上の人も5～6人いるので、いじめられるとかいうことはない。

問 現在の就業状況による生活実態についての実感(満足しているか又は不満足か、その理由など)はどうか。また、家計状況はどうか。

答 現在の仕事の内容はタフ（ハード）である。現在の会社は勤務場所により仕事の内容が違いますが、私の場合、高層ビルの上から下まで移動して仕事をするため、勤務してから10Kgやせた。例えばトイレに携帯電話を落としたなどの連絡があると、トイレの便器をはずして対応するなどの仕事もあり、最初はとまどいがあった。

最近では昔と異なり、技術も進んでおり、経験のないことを覚えていかないといけないので勉強し、マスターするまでが大変なのと、仕事も変わり、環境も変わったこと、また、日々いろいろな案件があり、輻輳するので、かなり大変である。仕事をマスターするまでには大体1年くらいかかる。

家計状況は62歳から年金が出ているので、減額されてはいるが、家計は特に問題はない。

問 現在の就業状況をそのまま継続したいと考えているか（継続の場合は何歳までか）。又は民間企業等に再就職したいと考えているか。

答 現在の会社は、昨年より段階的に雇用年齢を延長（1年ごとの契約更新）しており、基本的には、65歳まで働ける。会社からもっと働いてくれと言われれば、働くつもり。67歳くらいまではがんばりたい。

問 定年退職前の知識、経験等は現在の仕事（職務内容）にどのように生かされているか。

答 現在の仕事は国家資格（免許）が必要で、私は免許を持っており、それで国の施設等機関で仕事をしていたので、在職中の知識、経験等がおおいに役だった。

問 現行の定年制度、再任用制度等の仕組みについての考え（満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど）。

答 民間の雇用年齢が延びていっているのだから、年金の支給開始年齢との関係もあり、公務員も雇用年齢を延ばす方向に行くのは当然と思うし、伸ばしていただくことが必要。

現在の再任用制度の運用は各省庁でどうなっているのか。人事院は把握していると思うが、他府省では再任用されているのにD府省(庁)施設等機関のみ再任用されないのは不条理である。自分が退職するときは、定年退職する6名全員が再任用を希望し、組合からも交渉したが、本省から許可がでないということで再任用されなかった。どこに権限があるのか分からないが、人事院に権限があるのなら、改善命令を出して欲しい。自分は3月から再就職活動をし、たまたま民間企業に採用されるチャンスがあったが、チャンスがなかったらどういうふうになっていたか分からない。

問 今後、公務員について新たな雇用確保策を策定する場合、定年延長・定年制廃止、再任用の義務化のいずれが適当と考えるか及びその理由。

答 再任用制度ができたときにいいものができたこと皆希望を持ったが、実際の運用を見ると、再任用の実績はなく空希望に終わった。どういう制度を作っても実効性があるものでないと意味がない。

定年延長か再任用かと聞かれれば、定年延長は時代の流れと考えている。60歳にな

っても身体が元気で皆働けるなら定年延長が一番いい。できれば、65歳定年延長となり、65歳の時点でさらに再任用できるといい。

(「仮に給与カーブの変更や退職手当がすぐに出ないなどの状況があったとしても定年延長がいいと考えるか」との問に対して、) そういう状況があったとしてもやはり雇用の保障がされるので定年延長の方がいい。再任用では雇って貰えるかどうかわからず保障にならない。

(「再任用の義務化・・・ポストの提示を義務付け、定員がないから任用できないと言われない場合など・・・の場合はどうか」との問に対して、) 今までの当局の対応ぶりからすると再任用は不安がある。義務化の場合でもポストの空きがあって提示されてもそのポストがいやだと言ったらどうなるかは分からず難しい。

問 現に支給された退職手当、共済年金についての考え(満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど)。

答 退職手当は欲を言えばきりがなく、多ければ多いほどいいが、適正な手当を出して貰えればいい。

年金も多ければ多いほどいいが、特に少ないということはない。

(「今後のライフプランとか資金計画上、病気をしたときなどについてはどうか」との問に対して、) いろいろある中で考えていかないと仕方ないと思う。ちなみに住居は自宅(マンション)で、ローンは終わっている。今後、必要な資金としては、マンションのため、壁紙やカーテンを新しくする必要はある。

問 今後、無年金となることについて後輩に対しこのままでいいかどうかなどのアドバイスはあるか。

答 まずまず年金の支給開始年齢があがっていくので、雇用と年金の隙間が出ないように定年を伸ばしてもらい、しっかりやってもらいたい。退職して年金が3年後にしか出ないという場合、D府省(庁)施設等機関では再任用がないので、民間に行くしかないということになるのではないか。

問 退職・再就職に当たって支援して欲しい内容(セミナー・職業訓練の充実、失業手当、収入減少への補填、就職活動支援書の交付、自己啓発への支援など)。

答 これは特に必要。国家資格(免許)のほかに防災要員の免許を持っていないと勤務できないなど法律がどんどん変わってきている。民間の大規模ビルでは防災センターを置かなければならず、今は自衛消防の技術認定と防災管理の2つの免許が必要になった。今度、免許を取りに行くことになったが、公務員の間勤務時間中に習得できるよう公休扱いにするなどの対応が必要。また、受験料の支援も公務に役立つなら資金を半分くらい出してくれるなどの対応も必要。

問 今後の生活で気にかかることや不安に思うことがあるかどうか。また、その内容はどのようなものか。

答 まず健康が一番である。自分と家族(家内)がいつまでも元気で過ごせ、寝たきり

にならないようになりたいと思う。

問 その他、高齢期の雇用確保策について何か御意見はあるか。

答 再任用の一点につきる。退職して再就職が決まり振り返りができたが、再任用の運用が現実うまくいかず、再任用されない状況で年金の支給開始年齢はこれからも上がっていくので、定年延長をお願いしたい。

それと、退職・再就職に当たっての支援策については免許等の制度の変更に対応し、どんな場合でも必要な免許は在職中にとらせていく制度が必要。

<元E府省(庁)施設等機関(技能職)e氏

退職年月日 平成17年3月31日 定年退職

退職後の仕事 施設管理等業務

居住地 神奈川県 >

問 現在の就業先及び仕事の内容はどういうものか。

答 住居の近くの自治体体育館の維持管理を行う仕事を委託された民間会社でしている。

問 現在の就業状況に至った経緯、事情(官側の斡旋によるものか、自助努力で探したものか)どうか。再任用希望調査があったのか、再任用の希望はしなかったのかどうか、また、その理由など。

答 退職後、最初の1年は休もうということで就職せず、2年目から1年かけて仕事を探し、(なかなか仕事がなかったが)退職して3年目で地元で就職した。

再任用については、希望を出した方がいいという声があったが、他の施設でも定員のしぼりがあり、真に必要なところしか再任用しないと言われ、選別される筋合いはないと思い、希望を出さなかった。

E府省(庁)施設等機関ではまだ一人も再任用されていない。

問 現在の就業状況、ポスト、給与等の処遇面について満足しているか、不満か。また、その理由。

答 地方都市の小さい体育館の施設管理の仕事なので人員は3名で業務を行っている。仕事は、この人数で回しているが、施設管理の仕事のほかには備品等の貸出しや使用方法の指導もしている。

給与は手取りで退職前の給与の6割から7割くらいである。それぞれの事情によると思うが、給与等の処遇面で満足している人は誰もいないと思う。

問 職場でのコミュニケーションはうまくいっているか、苦労している点はどのようなことか。

答 国に在職していたときとコミュニケーションは全く違う。業務委託などの関係から過剰なサービス残業が多い。私はパート勤務だが、週2日サービス残業時間も含めて朝7時から夜は10時半頃までと週2日朝7時から夜5時半までの週4日の勤務である。民間の中小企業の業務は、労働状態、コミュニケーション、人間関係の面で極めて気が疲れて我慢しないとそれぞれが競争させられる中での仕事で長続きしないと思う。

問 現在の就業状況による生活実態についての実感(満足しているか又は不満足か、その理由など)はどうか。また、家計状況はどうか。

答 新しい職場に慣れるまで1年くらいかかった。1年たつと他のスタッフと同じように働けるようになった。最初の1年は就労せず、遊んでいたのが体重が増えたが、就職してからは万歩計で測ると1日1万5千歩くらい歩いている運動量である。

現在の仕事は仕事そのものは難しくはないが、警備の仕事もあり、神経を使うため、日常業務をマスターするのに1年くらいかかった。

問 現在の就業状況をそのまま継続したいと考えているか(継続の場合は何歳までか)。又は民間企業等に再就職したいと考えているか。

答 65歳くらいまで働ければと思っている。生活実態は娘が学校に行っているのもう少しがんばりたい。

問 定年退職前の知識、経験等は現在の仕事(職務内容)にどのように生かされているか。

答 定年退職前の私の仕事は技能職としての業務であったが、施設等機関の中でいろいろな業務をしていた。ただ、別系統の仕事は専門の職員がいたので、自分はやっていなかったが、今は国の勤務時の別系統の専門の職員がやっていたことを自分がやっているという感じである。

問 現行の定年制度、再任用制度等の仕組みについての考え(満足か又は不満か、不満の場合は具体的にどういう不満があるかなど)。

答 再任用制度は年金制度との関係で作られたものと思うが、E府省(庁)では再任用する気がなくて運用しているのではないかと思う。省庁によって違ったりせず、公平にやって欲しい。

再任用制度を作るなら希望者全員が誰でも再任用されない限り意味がない。「(本当に)再任用するんですか?」と聞きたい。

職を探しているときに、ハローワークに行ったが、公務員も民間と同様にハローワークに公平に行ったらどうかと思う。いずれにしても、新たに制度を作るのであれば、実効性ある制度を作らないと意味がない。今の制度では生活設計がなりたたず、どういつもりで制度設計しているのかと思う。制度ができたときにいたずらに期待を持って泣いた人が多かった。

問 今後、公務員について新たな雇用確保策を策定する場合、定年延長・定年制廃止、再任用の義務化のいずれが適当と考えるか及びその理由。

答 実際問題として、公務員だけが身分を保障されているのかどうか。若い人は3人に1人は派遣という状況を見るとそれはそれでいいのかどうか・・・。

何より仕事を求める人の雇用確保が大事で、手当については、いろいろな筋道があってもいい。要はきちんとした定年制度と再任用制度を作ることが大事。基本的にはみな定年になったら、ハローワークに行けばいい。

問 現に支給された退職手当、共済年金についての考え(満足か又は不満か、不満の場合)

合は具体的にどういう不満があるかなど)。

答 退職手当については、満足かといわれると何とも言えない。年金はどういうふうに自分なりにあてにするかということである。年金だけで暮らせればいいが、その辺が一番隘路である。年金だけで暮らせるような人は別として、きちんとした再任用がされれば生活設計がなり立つ。年金について満足かと言われると、仕事との関係で決まるので一概に言えない。

(「生活は年金と給与で足りているのか」との問に対して、)回転している。住居の状況は自宅。修理の勧誘がくると、修理などしなくていいように作ってあると言って応じないようにしている。

(公務部門では現業職員は減らされているが)現業業務がなくなったわけではなく、民間業務委託がされている。再任用で残れば民間業務委託は必要ない。民間委託の場合の人件費は1人40万円で、我々は20万円と安くペイできるはず。業務そのものはなくなるのでその辺を考えて欲しい。国の財政上もその方がいいはずだ。

問 退職・再就職に当たって支援して欲しい内容(セミナー・職業訓練の充実、失業手当、収入減少への補填、就職活動支援書の交付、自己啓発への支援など)。

答 退職・再就職については、人それぞれだが、ハローワークを充実して欲しい。若い頃にハローワークによく行き、求人票をみたが、今は60歳以上の高齢者の仕事を探し、受付に行って相談するとはねられる。「60歳以上OKと書いてあるじゃないか」と言うそれは建前だといわれる。民間では人を雇用するときフェイントをかけたりするので、ハローワークがきちんと把握して業者を指導して欲しい。そうしないと働けない。

求職活動支援について、人と同じレベルで同様にあまねくやっていただきたい。

(「失業手当についてはどうか」との問に対して、)E府省(庁)施設等機関の場合、我々の場合は失業がないということで雇用保険はかけていなかったが、賃金職員は1年更新の雇用なので、失業保険はかけていた。制度そのものがつぎはぎで一貫していない。失業保険はあるにこしたことはない。仕事を求めているのに仕事がなかったり、(保険請求の際に)解雇と言われない限り失業とは言わないというのは問題。本人の希望により失業保険をかけられるような制度を作って欲しい。

問 今後の生活で気にかかることや不安に思うことがあるかどうか。また、その内容はどのようなものか。

答 仕事はしていても、気持ちだけは若いが無理が利かず、もの忘れもするので、なんといっても健康が一番である。

問 その他、高齢期の雇用確保策について何か御意見はあるか。

答 定年延長するならするでもいいが、きちんとしたものを作ってもらわないと。

退職してからの見通しについて歯車が狂うと若くないので修正が効かない。制度に期待していてそれが外れたりすると不安がものすごく大きくなる。是非実効ある制度をお願いしたい。

以 上